

教育プログラム・コースの概要

大学名等	金沢大学附属病院歯科口腔外科
教育プログラム・コース名	金沢大学 特色ある医療支援歯学教育プログラム がん治療支援口腔機能管理社会人研修コース
対象者	社会人歯科医師
修業年限（期間）	1年以上
養成すべき人材像	・全領域のがん患者個々の状態やステージに応じた口腔機能管理を他職種チーム連携のなかで展開することにより集学的治療を支持し、患者のQOL向上に寄与できるリーダー的歯科医師
修了要件・履修方法	修了要件： 金沢大学がん治療支援口腔機能管理社会人研修コースで独自のポイント制を設ける。必修科目2ポイントおよび選択科目3ポイント、計5ポイントを取得すること。最低1年以上の修了期間の後に運営委員会が修了認定を行う。【金沢大学社会人歯科医師研修コース】 履修方法 学外の社会人歯科医師に対して、大学院入学等を伴わずにプログラムを提供する。次項の履修科目内容の コース（学部教育における約1単位相当分）を新設する 。講義科目はe-learning教材の自主学习により、また実習・演習科目は夏期に集中して行う。
履修科目等	<金沢大学社会人歯科医師対象教育プログラム> がん治療支援口腔機能管理社会人研修コース 各回60分の講義と、毎回後に確認テスト（確認テストは3問、正解が2問に満たない場合は再受験）を行う。正解が2問に満たない場合は再受験とし、合格で0.5ポイント取得とする。 必修科目： 第1回：がん患者口腔機能管理特論（2ポイント、講義、診療見学、実習） 選択科目：（合計3ポイント以上取得） 第2回：腫瘍放射線医学特論（0.5ポイント、e-learning） 第3回：がん緩和医療学特論（0.5ポイント、e-learning） 第4回：がん外科学特論（0.5ポイント、e-learning） 第5回：臨床腫瘍学特論（0.5ポイント、e-learning） 第6回：臨床栄養学特論（0.5ポイント、e-learning） 第7回：腫瘍薬物学特論（0.5ポイント、e-learning） 第8回：コンサルテーション特論（0.5ポイント、講義） 第9回：臨床統計学特論（0.5ポイント、講義） 第10回：臨床統計学演習（0.5ポイント、演習） 第11回：分子腫瘍学特論（0.5ポイント、講義）
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	全領域のがん患者に対して一貫した口腔機能管理を遂行し、集学的な治療を支援するためには、歯科医師が口腔のみならず様々な臓器・領域別の悪性腫瘍に対する治療や、その有害事象に関する基礎知識を習得し、がん周術期の口腔機能管理において他科主治医と有機的な医科歯科連携を構築することが重要である。さらに、全領域のがん患者に対する口腔状態と摂食・嚥下機能を科学的に評価して、口腔ケアの計画・指導・実践ならびに経口摂取レベルの的確な評価・食事指導を行い、「口から食べる」ことに関する器質的および機能的回復により集学的治療を支持することが必要である。以上を踏まえて本事業では、がん化学療法、放射線療法そして手術療法などに関する基礎的知識を講義するとともに、 全領域のがん患者の口腔ケアおよび嚥下診療を含む口腔機能管理に関する理論と実践を教育する点で新規性 がある。 さらに、金沢大学附属病院ではこれまでの各科別のがん治療体系を見直し、各科横断的がん治療体系の構築を目指して、がん研腫瘍内科、血液内科、乳腺科、泌尿器科、婦人科、頭頸部外科、緩和ケアチームが参加して、治療開始から終末期まで一貫した患者中心の全人的医療が可能な病棟の設置を今年度計画

<p>教育内容の特色等 (新規性・独創性等) (続き)</p>	<p>している。本構想には、がん薬物療法における支持療法に加え、best supportive careへと移行した患者への緩和ケアも対象としており、本プログラム参加により、がん治療開始から終末期までのすべての段階での口腔機能管理を、この病棟での実習を通して学習できる点で独創的である。 また、学外で働く社会人歯科医師に対して、大学院入学を必要としない社会人歯科医師インテンシブコースとして本事業のプログラムを提供し、<u>大学歯学部で口腔機能管理を教育されていない歯科医師に対して学習できる機会を提供する点で新規性・独創性</u>がある。</p>						
<p>指導体制</p>	<p>教育プログラム統括・がん治療支援口腔機能管理インテンシブコース運営委員長： 金沢大学・川尻秀一教授（歯科口腔外科学）</p> <p>がん治療支援口腔機能管理インテンシブコース運営委員 金沢大学・中村博幸准教授 金沢大学・吉澤邦夫講師 金沢大学・長谷剛志非常勤講師)</p> <p>運営委員会の下にプログラムマネジメント室を置き、専任担当職員を採用しコース実施の調整を行う。</p> <p>各科目担当者 第1回：金沢大学・長谷剛志非常勤講師（歯科口腔外科） 第2回：金沢大学・高仲強教授（放射線治療科）、絹谷清剛教授（核医学診療科）、小川外志江（看護部） 第3回：金沢大学・山本奈歩（薬剤部）、原祐輔（薬剤部）、丸谷晃子（看護部）、稲垣美智子（看護部）、山田圭輔講師（麻酔・蘇生学）、金田礼三助教（神経科精神科） 第4回：金沢大学・太田哲生教授（消化器外科）、小田誠准教授（呼吸器外科） 第5回：金沢大学・奥村廣和講師（血液内科）、笠原寿郎准教授（呼吸器内科）、井口雅史助教（乳腺科）、溝上敦准教授（泌尿器科） 第6回：金沢大学・大村健二講師（心肺・総合外科、NST） 第7回：金沢大学・矢野聖二教授、山田忠明助教、渡邊弘之講師（がん研腫瘍内科） 第8回：石川県立看護大・武山雅志教授 第9、10回：金沢大学・中村裕之教授（公衆衛生学） 第11回：金沢大学・大島正伸教授（がん研腫瘍遺伝学） 金沢大学・佐藤博教授（がん研細胞機能統御） 金沢大学・須田貴司教授（がん研免疫炎症制御）</p>						
<p>教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想</p>	<p>社会人歯科医師インテンシブコース修了者においては、周術期口腔機能管理計画でがん患者の自院への受け入れが容易になると期待される。がん治療中というだけで歯科治療を拒む歯科医師が減少し、一貫して患者の口腔機能管理と経口摂取に関する問題に対応できる地域医療体制が構築される。</p>						
<p>受入開始時期</p>	<p>平成27年4月</p>						
<p>受入目標人数</p>	<p>対象者</p>	<p>H26年度</p>	<p>H27年度</p>	<p>H28年度</p>	<p>H29年度</p>	<p>H30年度</p>	<p>計</p>
	<p>社会人 歯科医師</p>		<p>10</p>	<p>10</p>	<p>10</p>	<p>10</p>	<p>40</p>
							<p>0</p>
							<p>0</p>
							<p>0</p>
	<p>計</p>	<p>0</p>	<p>10</p>	<p>10</p>	<p>10</p>	<p>10</p>	<p>40</p>

教育プログラム・コースの概要

大学名等	金沢大学附属病院卒後臨床研修センター
教育プログラム・コース名	金沢大学 特色ある医療支援歯学教育プログラム がん治療支援口腔機能管理卒後臨床研修コース
対象者	研修医、研修歯科医
修業年限（期間）	1年
養成すべき人材像	・全領域のがん患者個々の状態やステージに応じた口腔機能管理を多職種チーム連携のなかで展開することにより集学的治療を支持し、患者のQOL向上に寄与できる基礎的知識と能力を持つ研修医（医師）および研修歯科医（歯科医師）
修了要件・履修方法	修了要件： 金沢大学がん治療支援口腔機能管理社会人研修コースで独自のポイント制を設ける。必修科目2ポイントおよび選択科目2ポイント、計4ポイントを取得すること。e-learningおよび各特論の受講に関しては確認テストに合格すること。診療見学は運営委員会の口頭試問に合格すること。【金沢大学卒後臨床研修センター必修・選択】 履修方法： 次項の履修科目内容の コース（学部教育における約1単位相当分）を新設 する。e-Learningクラウドおよび各特論または診療見学を選択して受講する。次項の内容は厚生労働省に認可された既存の研修プログラムの範囲内で内容を高度化させるものであり、認可申請を待たずとも開始可能である。
履修科目等	<金沢大学卒後臨床研修センター必修・選択コース> がん治療支援口腔機能管理プログラム 各回60分の講義と、毎回後に確認テスト（確認テストは3問、正解が2問に満たない場合は再受験）を行う。正解が2問に満たない場合は再受験とし、合格で0.5ポイント取得とする。 必修科目： 第1回：がん患者口腔機能管理特論（2ポイント、講義、診療見学、実習） 選択科目：（合計2ポイント以上取得） 第2回：腫瘍放射線医学特論（0.5ポイント、e-learning） 第3回：がん緩和医療学特論（0.5ポイント、e-learning） 第4回：がん外科学特論（0.5ポイント、e-learning） 第5回：臨床腫瘍学特論（0.5ポイント、e-learning） 第6回：臨床栄養学特論（0.5ポイント、e-learning） 第7回：腫瘍薬物学特論（0.5ポイント、e-learning） 第8回：コンサルテーション特論（0.5ポイント、講義） 第9回：臨床統計学特論（0.5ポイント、講義） 第10回：臨床統計学演習（0.5ポイント、演習） 第11回：分子腫瘍学特論（0.5ポイント、講義）
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	全領域のがん患者に対して一貫した口腔機能管理を遂行し、集学的な治療を支援するためには、医師、歯科医師が口腔のみならず様々な臓器・領域別の悪性腫瘍に対する治療や、その有害事象に関する基礎知識を習得し、がん周術期の口腔機能管理において他科主治医と有機的な医科歯科連携を構築することが重要である。さらに、全領域のがん患者に対する口腔状態と摂食・嚥下機能を科学的に評価して、口腔ケアの計画・指導・実践ならびに経口摂取レベル的確な評価・食事指導を行い、「口から食べる」ことに関する器質的および機能的回復により集学的治療を支持することが必要である。以上を踏まえて本事業では、がん化学療法、放射線療法そして手術療法などに関する基礎的知識を講義するとともに、 全領域のがん患者の口腔ケアおよび嚥下診療を含む口腔機能管理に関する理論と実践を教育する点で新規性 がある。

<p>教育内容の特色等 (新規性・独創性等) (続き)</p>	<p>全領域のがん患者に対する口腔状態と摂食・嚥下機能を科学的に評価して、口腔ケアの計画・指導・実践ならびに経口摂取レベルの的確な評価・食事指導を行い、「口から食べる」ことに関する器質的および機能的回復により集学的治療を支持することが必要である。以上を踏まえて本事業では、がん化学療法、放射線療法そして手術療法などに関する基礎的知識を講義するとともに、全領域のがん患者の口腔ケアおよび嚥下診療を含む口腔機能管理に関する理論と実践を教育する点で新規性がある。</p>						
<p>指導体制</p>	<p>教育プログラム統括・がん治療支援口腔機能管理インテンシブコース運営委員長： 金沢大学・川尻秀一教授（歯科口腔外科学）</p> <p>がん治療支援口腔機能管理インテンシブコース運営委員 金沢大学・中村博幸准教授（歯科口腔外科学） 金沢大学・吉澤邦夫講師（歯科口腔外科学） 金沢大学・長谷剛志非常勤講師（歯科口腔外科学）</p> <p>運営委員会の下にプログラムマネジメント室を置き、専任担当職員を採用しコース実施の調整を行う。</p> <p>各科目担当者 第1回：金沢大学・長谷剛志非常勤講師（歯科口腔外科） 第2回：金沢大学・高仲強教授（放射線治療科）、絹谷清剛教授（核医学診療科）、小川外志江（看護部） 第3回：金沢大学・山本奈歩（薬剤部）、原祐輔（薬剤部）、丸谷晃子（看護部）、稲垣美智子（看護部）、山田圭輔講師（麻酔・蘇生学）、金田礼三助教（神経科精神科） 第4回：金沢大学・太田哲生教授（消化器外科）、小田誠准教授（呼吸器外科） 第5回：金沢大学・奥村廣和講師（血液内科）、笠原寿郎准教授（呼吸器内科）、井口雅史助教（乳腺科）、溝上敦准教授（泌尿器科） 第6回：金沢大学・大村健二講師（心肺・総合外科、NST） 第7回：金沢大学・矢野聖二教授、山田忠明助教、渡邊弘之講師（がん研腫瘍内科） 第8回：石川県立看護大・武山雅志教授 第9、10回：金沢大学・中村裕之教授（公衆衛生学） 第11回：金沢大学・大島正伸教授（がん研腫瘍遺伝学） 金沢大学・佐藤博教授（がん研細胞機能統御） 金沢大学・須田貴司教授（がん研免疫炎症制御）</p>						
<p>教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想</p>	<p>がん患者の口腔機能管理や歯科支持療法・医科歯科連携の必要性や重要性が増していくなか、各地域で取り組みが開始されたがん医科歯科連携の方法や内容について、各地域間での相違が生じているという問題も明らかになっている。こうした中、本事業を修了した医師、歯科医師が、がん医療に関する医科歯科連携の質を担保していくことが期待される。</p>						
<p>受入開始時期</p>	<p>平成27年4月</p>						
<p>受入目標人数</p>	<p>対象者</p>	<p>H26年度</p>	<p>H27年度</p>	<p>H28年度</p>	<p>H29年度</p>	<p>H30年度</p>	<p>計</p>
<p>金沢大学病院 研修医・研修 歯科医</p>	<p>0</p>	<p>5</p>	<p>5</p>	<p>5</p>	<p>5</p>	<p>5</p>	<p>20</p>
<p></p>	<p></p>	<p></p>	<p></p>	<p></p>	<p></p>	<p></p>	<p>0</p>
<p></p>	<p></p>	<p></p>	<p></p>	<p></p>	<p></p>	<p></p>	<p>0</p>
<p>計</p>	<p>0</p>	<p>5</p>	<p>5</p>	<p>5</p>	<p>5</p>	<p>5</p>	<p>20</p>

教育プログラム・コースの概要

大学名等	金沢大学医薬保健学総合研究科
教育プログラム・コース名	金沢大学 特色ある医療支援歯学教育プログラム がん治療支援口腔機能管理コース
対象者	博士課程大学院生
修業年限（期間）	2年
養成すべき人材像	・全領域のがん患者個々の状態やステージに応じた口腔機能管理を他職種チーム連携のなかで展開することにより集学的治療を支持し、患者のQOL向上に寄与できる研究能力を持ったリーダー的大学院生
修了要件・履修方法	修了要件： 講義を受講し0.5単位を取得すること。e-learningおよび各特論の受講は確認テスト、診療見学は口頭試問に合格すること【金沢大学大学院必修科目、他大学自由選択科目】 履修方法： 次項の履修科目内容の <u>コース（0.5単位）を新設する。</u> 学生はe-Learningクラウドおよび各特論、診療見学を選択して受講する。さらに、口腔機能管理に関連する研究を実施し学会・論文発表を行うとともに学位取得を目指す。
履修科目等	<金沢大学必修科目、他大学自由選択科目> がん治療支援口腔機能管理プログラム（0.5単位） 必修授業：（3回） 第1回：腫瘍薬物学および腫瘍放射線医学特論（e-learning） 第2回：がん緩和医療学、がん外科学、臨床腫瘍学特論（e-learning） 第3回：臨床栄養学、がん患者口腔機能管理特論（講義、診療見学、実習） 選択授業：（合計1回以上受講） 第4回：コンサルテーション特論（講義） 第5回：臨床統計学特論（講義） 第6回：臨床統計学演習（演習） 第7回：分子腫瘍学特論（講義）
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	全領域のがん患者に対して一貫した口腔機能管理を遂行し、集学的な治療を支援するためには、歯科医師が口腔のみならず様々な臓器・領域別の悪性腫瘍に対する治療や、その有害事象に関する基礎知識を習得し、がん周術期の口腔機能管理において他科主治医と有機的な医科歯科連携を構築することが重要である。さらに、全領域のがん患者に対する口腔状態と摂食・嚥下機能を科学的に評価して、口腔ケアの計画・指導・実践ならびに経口摂取レベルの的確な評価・食事指導を行い、「口から食べる」ことに関する器質的および機能的回復により集学的治療を支持することが必要である。以上を踏まえて本事業では、 <u>がん化学療法、放射線療法そして手術療法などに関する基礎的知識を講義するとともに、全領域のがん患者の口腔ケアおよび嚥下診療を含む口腔機能管理に関する理論と実践を教育する点で新規性がある。</u>

<p>教育内容の特色等 (新規性・独創性等)</p>	<p>さらに、金沢大学附属病院ではこれまでの各科別のがん治療体系を見直し、各科横断的がん治療体系の構築を目指して、がん研腫瘍内科、血液内科、乳腺科、泌尿器科、婦人科、頭頸部外科、緩和ケアチームが参加して、治療開始から終末期まで一貫した患者中心の全人的医療が可能な病棟の設置を今年度計画している。本構想には、がん薬物療法における支持療法に加え、best supportive careへと移行した患者への緩和ケアも対象としており、本プログラム参加により、<u>がん治療開始から終末期までのすべての段階での口腔機能管理を、この病棟での実習を通して学習できる点で独創的である。</u></p>						
<p>指導体制</p>	<p>教育プログラム統括・がん治療支援口腔機能管理インテンシブコース運営委員長： 金沢大学・川尻秀一教授（歯科口腔外科学）</p> <p>がん治療支援口腔機能管理インテンシブコース運営委員 金沢大学・中村博幸准教授（歯科口腔外科学） 金沢大学・吉澤邦夫講師（歯科口腔外科学） 金沢大学・長谷剛志非常勤講師（歯科口腔外科学）</p> <p>運営委員会の下にプログラムマネジメント室を置き、専任担当職員を採用しコース実施の調整を行う。</p> <p>各科目担当者 第1回：金沢大学・矢野聖二教授、山田忠明助教、渡邊弘之講師（がん研腫瘍内科）、高仲強教授（放射線治療科）、絹谷清剛教授（核医学診療科）、小川外志江（看護部） 第2回：金沢大学・山本奈歩（薬剤部）、原祐輔（薬剤部）、丸谷晃子（看護部）、稲垣美智子（看護部）、山田圭輔講師（麻酔・蘇生学）、金田礼三助教（神経科精神科） 第3回：金沢大学・太田哲生教授（消化器外科）、小田誠准教授（呼吸器外科）、金沢大学・奥村廣和講師（血液内科）、笠原寿郎准教授（呼吸器内科）、井口雅史助教（乳腺科）、溝上敦准教授（泌尿器科）、大村健二講師（心肺・総合外科、NST） 第4回：金沢大学・長谷剛志非常勤講師（歯科口腔外科） 第5回：石川県立看護大・武山雅志教授 第6、7回：金沢大学・中村裕之教授（公衆衛生学） 第8回：金沢大学・大島正伸教授（がん研腫瘍遺伝学） 金沢大学・佐藤博教授（がん研細胞機能統御） 金沢大学・須田貴司教授（がん研免疫炎症制御）</p>						
<p>教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想</p>	<p>がん患者の口腔機能管理や歯科支持療法・医科歯科連携の必要性や重要性が増していくなか、各地域で取り組みが開始されたがん医科歯科連携の方法や内容について、各地域間での相違が生じているという問題も明らかになっている。こうした中、本事業を修了した歯科医師は、がん医療に関する医科歯科連携の質を担保にあたり、研究能力をもつ指導的歯科医師として活躍する。</p>						
<p>受入開始時期</p>	<p>平成27年4月</p>						
<p>受入目標人数</p>	<p>対象者</p>	<p>H26年度</p>	<p>H27年度</p>	<p>H28年度</p>	<p>H29年度</p>	<p>H30年度</p>	<p>計</p>
	<p>金沢大学大学院 大学院生</p>	<p>0</p>	<p>3</p>	<p>3</p>	<p>3</p>	<p>3</p>	<p>12</p>
							0
							0
							0
	計	0	3	3	3	3	12